

～飼っていたウサギの死（アドバンスケアプランニングを実践して）～

皆様、こんにちは

先日、飼っていたウサギが亡くなりました。

元々は妻の誕生日プレゼントとして小動物を物色していたところ、乃木坂46の白石麻衣さんばりに美形なこのウサギに一目惚れして、ほとんど妻をいいわけにして飼うことになったのが、今回亡くなったウサギです。

『ココ』ちゃんと名付けたこのウサギと、『うさんぽ（ウサギ+散歩）』をすべくりードなども準備したものの、ご本人の強力な意思表示により1歩たりとも『うさんぽ』をすることは出来ませんでした。

それでも、彼女の意志を確認しながら6年強同居生活を過ごしてきました。

各家庭のペット事情の常として、飼ってからは妻の世話に対する比重はとて高く、『ココ』ちゃん自身があまりかまわれたくないタイプのウサギさんだったこともあり、土日休日のお部屋やトイレ掃除などのお世話程度で接触する機会のごく限られていました。

実は以前から体調の変化のサインを家族一同感じていました。

この年末には一時的に排便が全くなり、年を越せないのではないかと感じていました。ウサギはストレスに弱く、獣医さんのところにつれていくこと自体もストレスになりえると情報が多くあり、自宅でそのままご本人が望む（直接はわかりませんがそう望んでいるだろうと解釈して）様に、あまり、人間が介入しない形で共に過ごす方針としていました。

年末の不調は何事もなかったように一旦彼女の体調はV字回復をみせ、その生命力に驚いていました。

ある日の朝、息苦しそうにしている姿を見ました。

人間でいうと起坐呼吸といって、横になっていると息苦しくて上体を起こして呼吸しているような姿でした。

その姿からすでに限界に達していることはみてとれました。

放っておかれない性格と思ってはいましたが、最後の瞬間は家族で見守ってあげたいと思い、居間にケージごと移動して様子を見ることにしました。

前足の力もあまり残されておらず、上体を自分の力で起こすことが困難になっており、様子をみながら、抱いて体を支えてあげ（元々は触れ合われるのは好きじゃない方だったので）、みんなで代わる代わる声をかけ、さすってあげました。

薬を点滴してあげるなど医療的なことはできる環境ではなく、見守るだけしかできませんでしたが、彼女によりそう時間を持ちました。

徐々に体温を失って体も硬くなる様子を子供達にも教え、身近なところで死というものを家族で体験することができました。

これが、我が家の『ココ』ちゃんに対するアドバンスケアプランニングのあらましです。

埋葬まで家族でそれぞれの役割を果たし、ココちゃんの思い出を語りながらお参りしています。

ウサギなので、触っていると毛がぬけて大変なのですが、この世で一番気持ちがいい感触の毛並みのココちゃんでした。安らかに眠ってほしいと思います。

では、また。

